****
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』　第 378 号
－環境・農業・食べ物など情報の交流誌－
2015.05.14（木）発行　　　山崎農業研究所＆編集同人
＜キーワード＞
環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所＆『電子耕』編集同人が編集・発行。
http://www.yamazaki-i.org
**************************************発行部数 1031 部***************

□　目　次　　□---

＜巻頭言＞ 今年は「国際土壌年」。知ってましたか？ 塩谷哲夫
＜第 151 回 定例研究会（05/16）のご案内＞
テーマ :「新基本計画」＝農政改革の車の両輪を問う
講師 : 市田知子 氏（明治大学教授）・森島 賢 氏（立正大学名誉教授）
＜イベント情報＞
「本橋成一『アラヤシキの住人たち』刊行記念
内山節さん×本橋成一さんトークセッション」が開催（05/19）
＜お知らせ 1＞ 山崎農業研究所所報『耕 No.135』発行されました
＜お知らせ 2＞ 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8 完成しました
＜編集後記＞ 「言ってしまうと…」――MISIA がみせた勇気

＜巻頭言＞ 今年は「国際土壌年」。知ってましたか？

桜が終わっても、私たちの暮らしの周りの講演や里山では新緑が美しく、田んぼには植えたばかりのかわいらしいイネが並んでいる。夕方になるとカエルの声がにぎやかになる。都会に住んでいる人々も、ゴールデンウイークの休暇中に郊外や田舎に出かけて、こんな日本の原風景を“いいなあ”と思うだろう。

土・水・緑、そして生きものたちがそろった豊かな自然の生態系が身近にある日本にいると、土（土壌）の重要性を自覚しにくい。土なんて、どこにでもあり、いつでも使えると思ってしまう。
私はブラジルの農村で仕事をしていたが、一番いやだったのは、乾期になって何十日も雨が降らないで、水分を失った土がカチンカチンに固まったり、あるいは砂漠の砂のようにサラサラになって、まるで死んでしまったようになることだった。これは土じゃない、日本にはいつもしっとりした“生きた土”が

ある。日本はいいなあと、思ったものである。

今年は国連総会で定めた「国際土壌年」である。そう言っても、さっぱりピンとこない。でも、国連総会決議文にある国際土壌年のテーマが“Healthy Soils for a Healthy Life”だと英語で書かれているのを知れば、賢い日本人は、あれこれ想いをめぐらして、土は貴重な天然資源なのだから、汚染させたり、損亡させたりしないようにして、上手に利用して、健全な社会を作ることが大事だ…と、抽象的にではあるが納得してくれそうである。
そこで、もっと突っ込んで、そもそも土って何だろうと、改めて見直してみてほしい。土がなくては、食べ物（農産物）も、生きものたちも、美しい自然の風景もない。

ところで、最近すごいことがわかった。日本列島の約2割の面積を覆っているクロボクは火山灰が堆積したものだと思っていたが、本当は、縄文人が1万年をかけてつくり出した「文化遺産」だというのである。山野井徹（山形大名誉教授）が各地のクロボク土層の現場を訪ね、掘り起し、地質学・考古学・土壌学・土質工学を総動員して分析して、明らかにした。山野井が『日本の土』の真実を追いかけていく謎解きは、推理小説を上回る面白いものである〈筑地書館〉。
もう一つ、人間がつくり出した“黒い土”がアマゾンにあったことをデイビット・モントゴメリー（ワシントン大学）が“Dirt：The Erosion of Civilizations”，2007〈『土の文明史』，筑地書館，2010〉の中で紹介している。アマゾン住民は低養分の土壌で生計を維持するために、耕地に集中的に木炭や有機物を施用していたらしい。それが数千年に及んで、元の土壌とは比べ物にならない肥沃な土になっていたことが最近になって明らかになった。この黒い土“Terra Preta”は、アマゾン川流域の1割もの面積を覆っている。

人間は、こんなにも長い時間をかけて、自然と協働して土を作ってきたのかと感動した。その流れを引き継いで、有機物施用による土づくりを農法の基本として、それを実行してきた日本の農民の営みは素晴らしいと思う。
ところが、今の日本の農業の実態はどうだろう。化学肥料で作物がつくれるという誤った農法の「近代化」が、耕地に施用される有機物は激減させ、土壌の劣化を進行させた。政府の「環境保全型農業直接支払」制度によって、カバークロップ、堆肥施用、有機農業への取り組みが増加したことはうれしい。しかし、その面積はわずか約4万ヘクタールに過ぎない（平成26年度見込み）。耕地の利用率は92%にまで下がっている（25年度）。荒廃農地は265千ヘクタ

ール（25年度）。

日本は「国際土壌年」を単なるお題目で終わらせてはいけない。

塩谷 哲夫
山崎農業研究所幹事
yamazaki@yamazaki-i.org

＜第151回 定例研究会（05/16）のご案内＞
テーマ：「新基本計画」＝農政改革の車の両輪を問う

TPP交渉、農協・農業委員会改革など、農家と農業関係者に関わる問題が政府主導にて進められています。3月31日には新しい食料・農業・農村基本計画が閣議決定された。アベノミクスの成長戦略の1つである農政改革は、「強い農業（産業政策）」と「活力ある農村（地域政策）」を車の両輪として展開すると位置づけています。だが、どうも「強い農業」が前面に出ており、「活力ある農村」への道がよく見えません。車は、両輪のバランスが必要です。EUの農政と比較し話し合います。皆様の多数の参加をお待ちしています。

第151回 定例研究会
テーマ：「新基本計画」=農政改革の車の両輪を問う
1、日時：5月16日（土）13：30〜17：00
2、場所：NTCコンサルタンツ（株）会議室
東京都中野区中野区本町1-32-2 ハーモニータワー20F
地下鉄：東京メトロ丸ノ内線 中野坂上駅下車
中野坂上交差点方面改札〜1番出入口、交番のある一画
3、話題提供と質疑応答
1）解題
小泉浩郎 氏（山崎農業研究所 所長）
2）「EU農政改革と農村」
市田知子 氏（明治大学教授）
3）「新基本計画と地域協同組織」
森島 賢 氏（立正大学名誉教授）
4）総合討論
※参加費：500円

4、意見交流会＆懇親会
※話題提供者を交えての自由な意見交換会 参加費：4000 円
※参加申し込み：参加希望者は事前に下記へご連絡下さい。
※会員外の方も参加できます。知人への参加呼び掛けをお願いします。
TEL：03-5333-2051（益永）
e-Mail：y.masunaga@ntc-c.co.jp

＜イベント情報＞
「本橋成一『アラヤシキの住人たち』刊行記念
内山節さん×本橋成一さんトークセッション」が開催（05/19）

MARUZEN＆ジュンク堂書店 渋谷店さんにて「本橋成一『アラヤシキの住人たち』刊行記念 内山節さん×本橋成一さんトークセッション」が開催されます。

詳細は：http://www.junkudo.co.jp/mj/store/event_detail.php?fair_id=8892

開催日時:2015 年 5 月 19 日(火) 開演 18:30 (開場 18:00)
開催場所:MARUZEN＆ジュンク堂書店渋谷店 7 階喫茶コーナー
http://www.junkudo.co.jp/mj/store/store_detail.php?store_id=2
定員:40 名
入場料:1000 円(ドリンク付)

お問い合わせ・ご予約は下記まで
MARUZEN＆ジュンク堂書店 渋谷店（東急百貨店本店 7F）
電話:03-5456-2111
営業時間:10:00～21:00

＜お知らせ 1＞ 山崎農業研究所所報『耕 No.135』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.135』が発行されました。
ご希望の方には雑誌を頒布いたします。
yamazaki@yamazaki-i.org
までご連絡ください。

《土と太陽と》（巻頭言）
「耕」について考える◎塩谷哲夫

［第149回定例（現地）研究会］家族協定による畜産業経営
農業を守り暮らしに生き甲斐を◎小泉浩郎
〔報告1〕生活改善普及活動と家族経営協定◎阿久津加居
〔報告2〕家族経営協定で酪農経営の複合化
──酪農・教育ファーム・牧場カフェ◎人見みゐ子
参加者の声◎樋口直美／小林俊夫／熊澤喜久雄／服部朋子／益永八尋

［第150回定例研究会］自然災害を考える新たな視点
I 渓流保護から見る土石流災害と砂防問題◎田口康夫

［特別寄稿］
・土砂災害にみる災害リスクの回避についての考察◎渡邊 博
・広島市土砂災害から森林問題を考える◎大内正伸
・キューバの防災対応◎吉田太郎

〈連載〉“生きもの語り”の世界から(6)
百姓仕事の精神性─情愛からタマシイの世界への道／宇根 豊

〈農村定点観測〉
・語りつぐシルバーへの途（みち）／茨城県・大河原幸一
・「飽食の時代」に思う／長野県・橋戸良知
・飼料用米、本格生産の課題／新潟県・吉原勝廣

＜お知らせ 2＞ 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8完成しました

山崎農研編集「平成のマドンナ」シリーズ No.8(B5版・30ページ) が完成しました。既発行分も含め、電子版あるいは冊子で頒布しています。送料込み500円です。ご希望の方は yamazaki@yamazaki-i.org までご連絡ください。

（新刊）
No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ
栃木県那須塩原市

酪農・教育ファーム・レストラン 人見みゐ子さん
（阿久津加居聞き書き）

（既刊）
No.1 都市近郊に「オアシス牧場」を
埼玉県上尾市 榎本美津子さん（小井川敏子聞き書き）
No.2 世羅高原のそよ風になりたい
広島県世羅町 井上幸枝さん（後由美子聞き書き）
No.3 むらにまちにこどもたちにふるさとの味を伝えたい
鳥取県鳥取市 西山徳枝さん（小泉浩郎聞き書き）
No.4 働きやすい作業環境の改善
徳島県 藍住地区のお母さん達（小林徳子聞き書き）
No.5 「奥久慈の味」から広がる出会い
茨城県大子町 齊藤キヌ子さん（臼井雅子聞き書き）
No.6 デパートに進出した農村女性
栃木県宇都宮市 アグリランドシティショップ（阿久津加居聞き書き）
No.7 貧しさに学びこころ豊かに生きる
群馬県嬬恋村 丸山みち子（丸山みち子著）
No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ
栃木県那須塩原市 人見きゐ子さん（阿久津加居聞き書き）
No.9 （近刊） 月に手が届く山間農家に嫁いで
高知県土佐町 和田計美さん

＜編集後記＞ 「言ってしまうと…」――MISIA がみせた勇気

「言ってしまうと…」と言いながら、なんだか口ごもっている。「彼女は何かとても大事なことを言おうとしているのではないか」。いつもよりはおそらく長いのであろう MC を聞きながらそんなことをわたしは思っていた。

5 月 5 日に行なわれた MISIA のコンサート会場でのことである（「星空のライブ VIII」）。彼女は、貧困や内戦に苦しむアフリカへの旅で衝撃をうけたこと、帰国当時はモノであふかえる日本にリアルな感覚をもてなかったこと、たまたま歩いていた海岸で見た、互いをいたわりあう老夫婦に、おそらく戦争を体験した彼らだからこそ大切なのは何かわかっているはずと感じたこと――そんなことをあれこれ語りながら、なんどめかの「言ってしまうと…」の後、こう言

った。

「憲法を、憲法 9 条を壊さないでほしい。もし変えるのならばわたしたちが考えて答えを出す機会を与えてほしい！」

MISIA は長崎県出身。ネットをみると、幼い頃から平和教育を受け、そのことも影響しているのではないかという指摘もある。だが、教育を受けるということと、そこから感じ・考えたことを発言することとの間には大きな溝があるのではないか。その溝を跳び越えるのはなみたいていの勇気ではない。

唐突といえばそうとう唐突だった。しかし、である。コンサート開始直後から、わたしは考えていたのだ。安保法制問題で世間は騒がしいのに音楽なんてなあ、と。だから MISIA の発言は余計に胸にささった。そうなのだ、「音楽なんて」と思う感覚自体が間違っているのだ、そうではなくて、「音楽なんて」と感じさせられる、歌姫 MISIA がそう発言せずにいられない今の社会にこそ問題があるのだ。

もちろんいろいろな見方はある。ファンの間にはこの発言で彼女の立場があやうくなることを恐れる人もいるようだ。しかしこれもまた転倒した見方だろう。わたしはやはり MISIA の勇気を称えたい。今回のツアー最終日は 8 月 29 日、沖縄だとか。頑張って、MISIA！

2015 年 05 月 14 日

山崎農業研究所会員・田口 均
yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売
『自給再考――グローバリゼーションの次は何か』
（発売：2008/11 定価：1,575 円 ）
http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/
たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）
グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ

http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html
◎戎谷徹也さん（大地を守る会）
ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”
「自給率」の前に、「自給」の意味を
http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/
◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）
キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました
http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182
◎関良基さん（拓殖大学政経学部）
ブログ：代替案 書評：『自給再考 －グローバリゼーションの次は何か』
http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0
◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）
ブログ：神流アトリエ日記（3）「書評『自給再考』」
http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive
◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か
http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html
◎森川辰夫さん
NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報
http://www.rircl.jp/shiryo.htm
◎日本農業新聞／書評
（2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優）
http://yamazaki-i.org/
（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）
◎小谷敏さん（大妻女子大学）
日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）
http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219
◎白崎一裕さん（(株) 共に生きるために）
月刊とちぎ V ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫
http://yamazaki-i.org/
（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）
◎塩見直紀さん（半農半 X 研究所、執筆者）
ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！
立国集。
http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/

◎お願い「＜読者の声＞の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
3、1回1テーマ、10行位に。
4、ホームページを持っている人は、文末にURLを。
5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。
http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html
インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回　379号の締め切りは05月25日、発行は05月28日の予定です。

＜本誌記事の無断転載を禁じます＞
****
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」　第378号
最新号・バックナンバーの閲覧
http://archive.mag2.com/0000014872/index.html
http://nazuna.com/tom/denshico.html
購読申し込み／解除案内
http://www.yamazaki-i.org
2015.05.14（木）発行　　　山崎農業研究所＆編集同人
mailto:yamazaki@yamazaki-i.org
ここまで『電子耕』**********